

## 「新型コロナウイルス感染症対策による養護教員に関わる緊急実態調査」結果

○調査期間 2020年9月15日～10月5日

○調査方法 Webによるアンケート

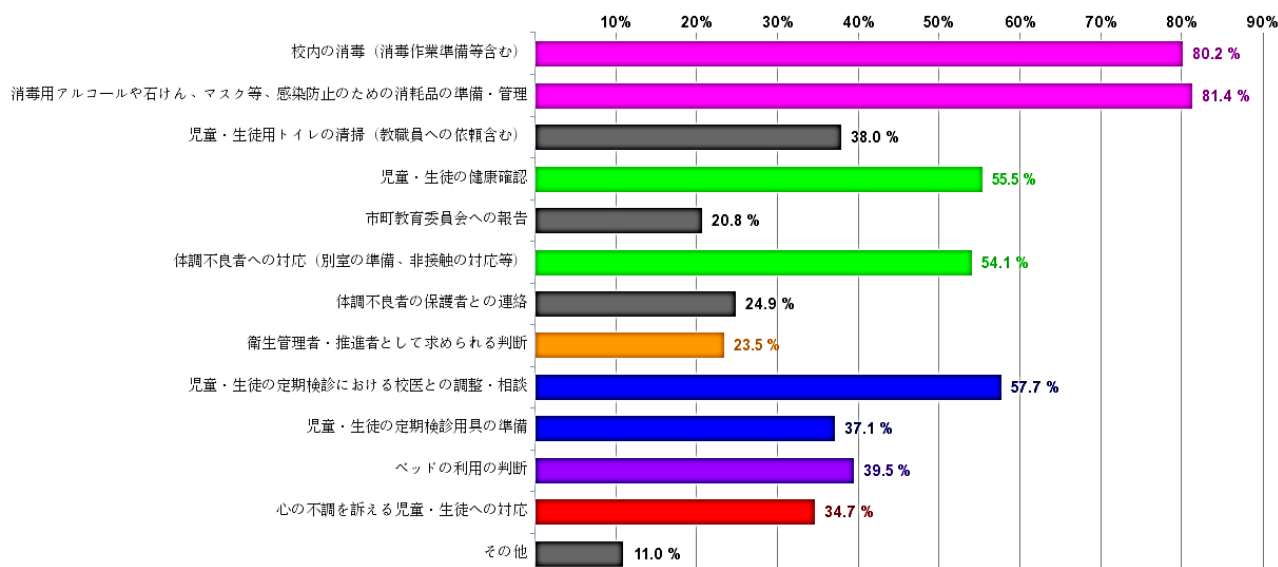
○対象 静岡県教職員組合全分会 746分会

○回答数 582分会 (回答率 78.0%)

○回答者 養護教員

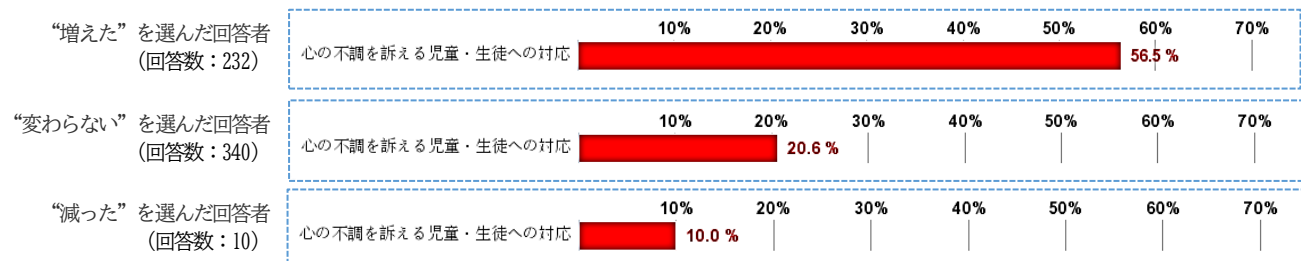
### 1 新型コロナウイルス対応における、養護教員の課題について

#### ①新型コロナウイルス感染症対策として、負担になっているものは何ですか（複数回答可）



<項目『心の不調を訴える児童・生徒への対応』の回答者と、

#### 2①「新型コロナウイルス感染症への対応の中で、心の不調を訴える児童・生徒は増えましたか」の回答結果とのクロス集計>

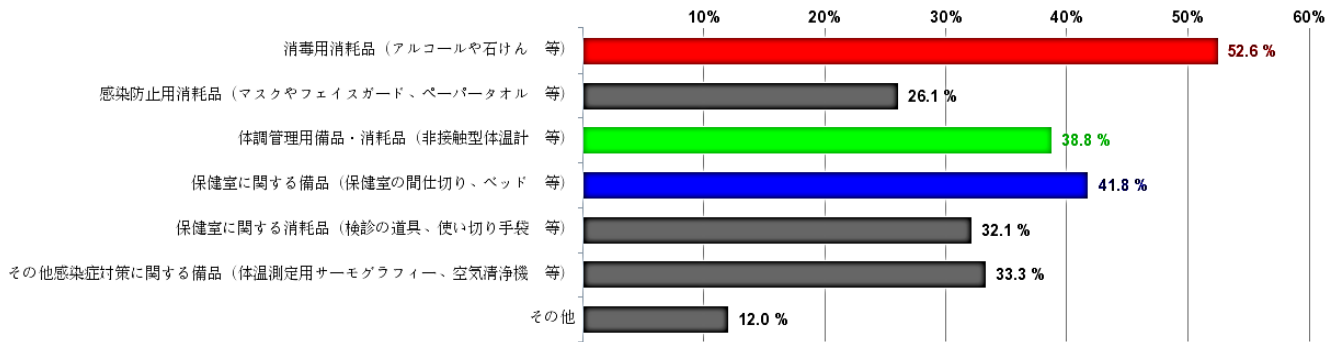


#### 【分析】

- ・「校内の消毒」「感染防止のための消耗品の準備・管理」が80%を超え、消毒作業に関わる業務が大きな負担となっていることがわかる。特に、消毒作業は他の教職員によって毎日行われているが、消毒用アルコール等の補充や管理は養護教員が行っている学校が多く、養護教員のみで準備等をしていることがうかがえる。
- ・「児童・生徒の定期検診における校医との調整・相談」が57.7%であった。例年年度当初に実施していた定期検診が一斉の臨時休業により実施できず、臨時休業が終了しても感染リスクを考えながらの日程調整が負担となっていたことがわかる。夏季休業終了後に検診を行った学校もあり、児童生徒健康診断票に記載する終了日が市町によって違うことで転出処理等にも影響が出ている。「定期検診用具の準備」は37.1%であり、検診器具のレンタル化がされていない地区では、学校での消毒滅菌で問題がないのか不安を感じていることがうかがえる。
- ・「児童・生徒の健康確認」が55.5%であった。対応は市町や学校ごと違いがあることが考えられるが、検温をせずに登校した児童生徒を、保健室で検温する学校もある。また、風邪症状の出席停止を養護教員が判断することや出席停止に伴う事務作業の増加が負担になっていると考えられる。「体調不良者への対応」が54.1%、「ベッド利用の判断」が39.5%を占めていることとも相関関係が考えられ、発熱者への対応に苦慮していることがうかがえる。

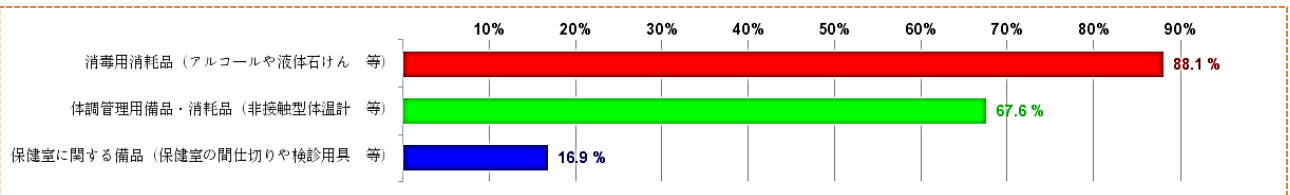
- ・「心の不調を訴える児童・生徒への対応」が39.5%であった。『新型コロナウイルス感染症への対応の中で、心の不調を訴える児童・生徒は増えましたか』の問いに、「増えた」と答えた回答者とのクロス集計では、56.5%であった。「変わらない」では20.6%、「減った」では10.0%であったことから、心の不調を訴える児童・生徒が増えることで、養護教員の負担も増していることがわかる。
- ・「衛生管理者・推進者として求められる判断」は23.5%であり、4分の1に満たなかった。しかし、「その他」には、衛生管理者・推進者だからではなく、“養護教員”として消毒や早退、行事の延期・中止等様々な判断を求められることに対して負担を感じているという声が多い。

## ②新型コロナウイルス感染症対策として、不足しているものは何ですか（複数回答可）



<参考：静教組『新型コロナウイルス感染症対策によるカリキュラム編成等の緊急実態調査』

「“学校再開支援経費”を使用して購入した物を教えてください」に対する回答（抜粋）>

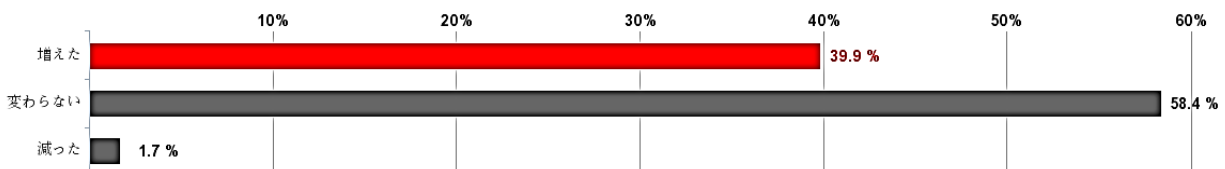


### 【分析】

- ・「消毒用消耗品」が半数を超えている。同時期に分会長対象に行った『新型コロナウイルス感染症対策によるカリキュラム編成等の緊急実態調査』では、学校再開支援経費で「消毒用消耗品」を購入したと答えた割合が88.1%だったが、それでも「消毒用消耗品」に不足を感じていることがわかる。消毒用アルコールは、保管場所が限られることや使用期限があり長期保存が難しいことから「その他」には、現状は補えているが今後の補充や確保が心配だという声が多い。また、前問でも「消毒作業が負担」となっているように、ここでも消毒へ常に気を配らなければならない状況であることがうかがえる。
- ・「保健室に関する備品」が41.8%だった。新型コロナウイルス感染が疑われる症状がある児童・生徒が出た場合、別室対応ができない学校では間仕切り等で他の児童・生徒と分けなければならないが、その準備ができていないことがわかる。また『カリキュラム編成等の緊急実態調査』では、学校再開支援経費で「保健室に関する備品」を購入したと答えた割合は16.9%であり、保健室の環境整備にまだ課題があることがうかがえる。
- ・「体調管理用備品・消耗品」は38.8%だった。『カリキュラム編成等の緊急実態調査』では67.6%が学校再開支援経費を活用していると回答しており、非接触型体温計等の「体調管理用備品・消耗品」は各校で必要とされていたことがうかがえる。

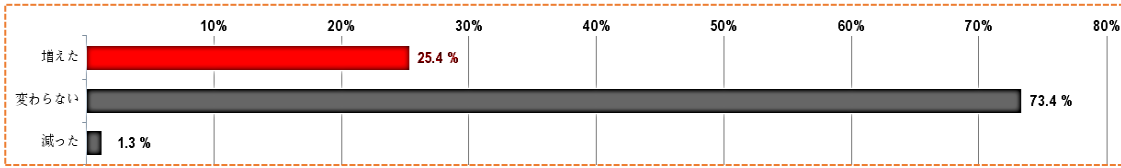
## 2 新型コロナウイルス感染症への対応での、児童・生徒の様子

### ①新型コロナウイルス感染症への対応の中で、心の不調を訴える児童・生徒は増えましたか

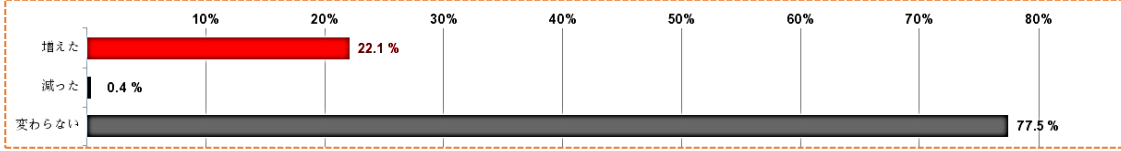


<参考：静教組『新型コロナウイルス感染症対策によるカリキュラム編成等の緊急実態調査』>

「新型コロナウイルス感染症への対応の中で、不登校（保健室登校等含む）児童・生徒は増えたと感じますか」に対する回答>



<「新型コロナウイルス感染症への対応の中で、スクールカウンセラーへの相談希望は増えましたか」に対する回答>

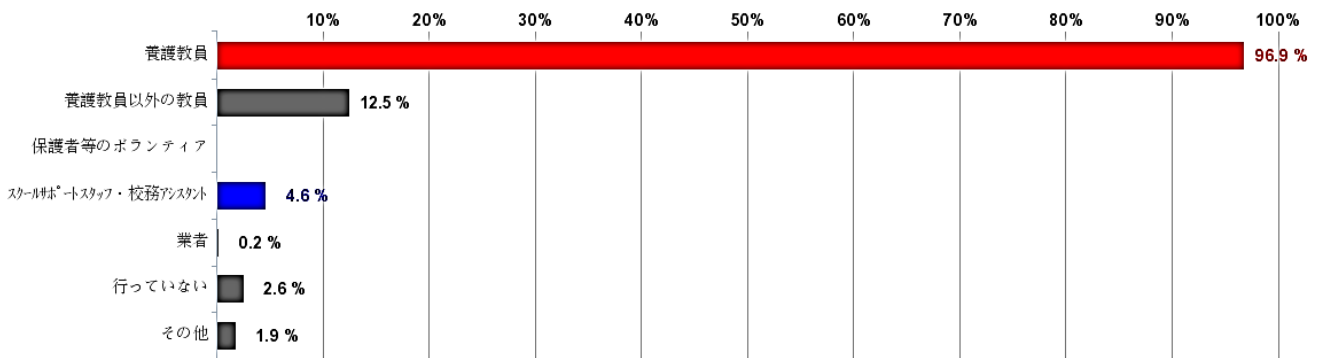


【分析】

・心の不調を訴える児童・生徒が「増えた」と回答したのは4割近くになった。また、『カリキュラム編成等の緊急実態調査』では「不登校（保健室登校等を含む）児童・生徒が増えた」との回答が25.4%、「スクールカウンセラーへの相談希望が増えた」との回答が22.1%となっている。感染症対策と並行しながら児童・生徒の心のケアを行っている実態と苦悩がうかがえる。

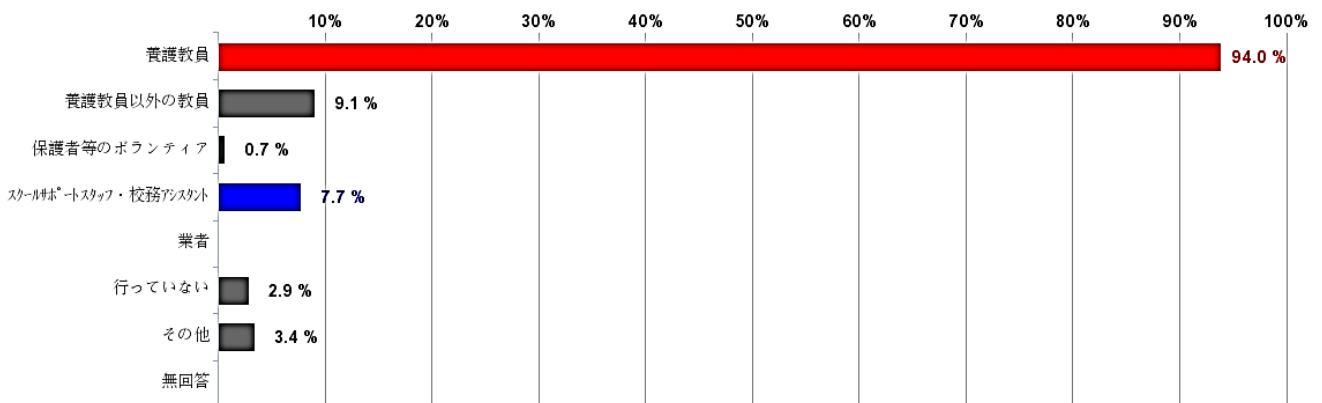
3 保健室の消毒作業について

①夏休み前の保健室の定期的な消毒作業はだれが行いましたか



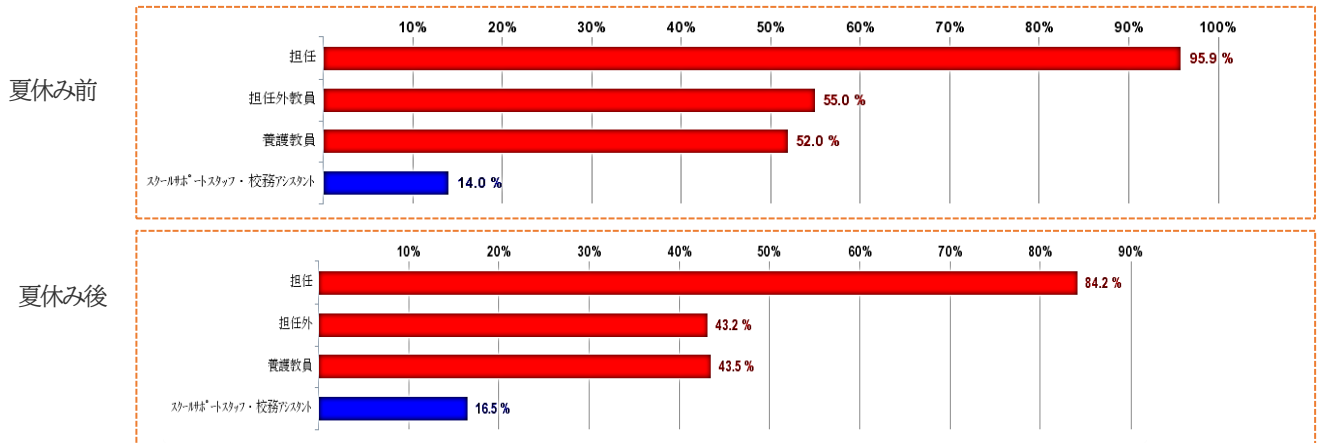
②現在の保健室の定期的な消毒作業はだれが行っていますか

[文科省は8月6日に「学校の新しい生活様式」を改訂し、『床は通常の清掃活動の範囲で対応』『机・イスの特別な消毒は不要』『大勢がよく手を触れる場所は1日1回消毒』『特別な消毒作業は基本的に不要』等を示しました。](#)



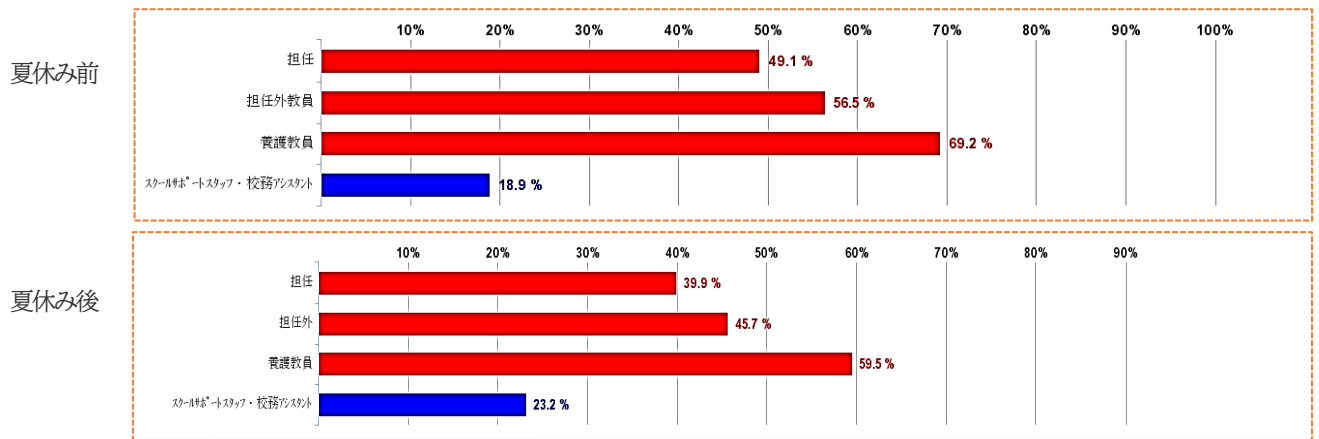
<参考：静教組『新型コロナウイルス感染症対策によるカリキュラム編成等の緊急実態調査』

「教室の定期的な消毒作業は、だれが中心になって行いましたか（複数回答可）」に対する回答（抜粋）>



<参考：静教組『新型コロナウイルス感染症対策によるカリキュラム編成等の緊急実態調査』

「児童生徒用トイレの定期的な消毒作業は、だれが中心になって行いましたか（複数回答可）」に対する回答（抜粋）>



#### 【分析】

- ・感染リスクが一番高いと思われる保健室の消毒は、ほぼ養護教員が行っていることがわかる。新型コロナウイルス感染症の流行以前から保健室における感染予防対策を養護教員が行っていたからか、8月6日に文科省が“学校の新しい生活様式”を改訂しても、養護教員による保健室の消毒作業はほぼ変わっておらず、軽減されていない。一方で、『カリキュラム編成等の緊急実態調査』では、「教室」や「児童生徒用トイレ」の消毒は“学校の新しい生活様式”の改訂を境に10ポイント程度数値が下がっており、保健室の消毒が養護教員の負担となっていると考えられる。
- ・スクールサポートスタッフ（SSS 浜松市は校務アシスタント）を活用した消毒作業の割合は、“学校の新しい生活様式”の改訂後にやや増えている。しかし、「教室」や「児童生徒用トイレ」の消毒では10%を超える割合に対し、「保健室」の消毒は改訂後も10%に満たない。SSSが放課後まで勤務している学校が少なく、児童・生徒の下校後に行われる消毒作業ではSSSを十分に活用できておらず、効果的な負担軽減につながっていないことがうかがえる。